

江戸川大学 2021 年度 卒業論文要旨

現代における異文化コミュニケーションとは
-人権問題に闘った活動家からヒントを得る-

メディアコミュニケーション学部

情報文化学科

1832082 村沢大輝

指導教員 水野邦太郎

【キーワード：違い、固定観念、尊重】

世界には、多くのコミュニティが存在する。そこには、国籍の違いだけでなく、見た目や宗教、文化の違いなどがある。そのような違いが引き金となり、争いや差別などの対立が起こる。相手のことを理解できない人や相手との違いを認められない人は誰かを傷つけてしまうのである。現代では、世界中で交流が盛んにおこなわれており、労働、留学、旅行などにおいて自分のコミュニティとは異なる人たちと関わる機会が以前よりも格段に増えている。このように、自分が普段生きている輪の外側に飛び出し、異なる背景をもつ人たちと手を取りあって生きていくとき、対立や争いごとを生じさせないようにするためにはどのような心持をしておけばいいのかあらかじめ体得しておく必要がある。

そこで本研究では、異なる他者と関係を築くうえで必要になる異文化コミュニケーションについて、文献を用いて深掘り、どのように異なるものと向き合っていけばよいのかという疑問について検討した。そして、序列や差異による不公平な扱いをなくそうと闘った3人の活動家のものの見方や考え方から、対立の生まれない平和な世の中のための、また、自己が異文化コミュニケーションを実践するための意識などについて考察した。

結果として、相手を理解する努力をして相手との違いを楽しむことで対立はなくなると考える。私たちは、〇〇といえば〇〇であるという多くの人がそう思うであろう当たり前の情報を前提に相手と対峙しがちである。相手のことをよくわからないまま、そのような先入観を持って相手の良し悪しを判断してしまうと対立が生まれる。だから、私はこうあるべきだというステレオタイプをなくし、相手を理解する努力をして相手との違いを楽しむべきだと考える。また、3人の人権問題に闘った活動家の主張が共通している点があり、相手の立場にたって物事を考える行動は、異なる他者のことを理解し、尊重することができる。他にも、人権問題に闘った活動家たちの言葉や行動から、多様な他者と関わる機会が増えた私たちは参考にすべきところが多くあるといえる。

The actual of cross-cultural communication in the present times

-Obtain a method of behavior from the activists who fought with human rights-

Daiki Murasawa

【Keywords : difference, stereotype, consideration】

People takes a discriminatory attitude triggered for the differences such as appearance, nationality and others. To suppress the action, I have got a method from some literatures and the activists who fought with the human rights question. Consequently, I understood that it is important to remove one's stereotypic images and approve each other.